琉球大学学術リポジトリ

農業の機械化を進めるために　（１）

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農家政学部
	公開日: 2011-06-14
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 泉, 裕巳
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20288

畜や機械の操縦を困難から不可能に陥れることがしばしばあります。かかる土地では砂利を除き、客土し、堆厩肥を加え、あるいは排水工事を施して乾田化をはかるなどの土地の理化学的性質を改善する土地改良が必要となります。また、水田を機械化するにはいかなる水分状態にあっても機械を自由自在に駆使して性能を十分に発揮しうるような動力耕耘機を考案発明することも大切です。同時に現在の機構の下に使用し得る土地環境を明かにし、これを改善することもゆるがせにしてはなりません。

日本（沖縄を含めて）の農業では水利条件を改善することが畜力機械化前進の基本条件であると言えます。関東、東北地方および阿蘇山麓地帯の畑地で見られる軽そう土は土壌粒子が概して非常に細かく、普通の犂と普通の土壌状態では、犂体に土壌が附着して作業目的を達することが困難とされていますが、犂の材質、加工、新しい機構等、設計の面からと、土壌の本質、水分含有程度と土粒の凝集附着限界との関係などを究明し、両者を適宜組合せて畜力化、機械化を実現させなければなりません。また、田で動力耕耘機やガーデントラクターを利用する場合は耕盤が固く減水が十分得られれば、耕起、代かき作業などにその使用が比較的容易になりすますが、耕盤が軟かい湿田では現在のところその作用がかなり制約されます。従って耕盤を作るために床締め工事を行い、また排水工事によって乾田化するなどの土地改良と水利改善を行うことが必要になってきます。　（泉　裕巳）

訂　　正

前号の「農業の機械化を進めるために」の記事の中で耕転機とあるは耕耘機のあやまりです。